

学習コンテンツ 利用の手引き

コンテンツタイトル 知的財産権

対象 高校生

学習のねらい 知的財産権の歴史、内容、必要性を理解する

学校で指導する際の学習展開例

	生徒の学習活動とスライド等の番号	指導上の留意点
導入	○スライド1～3 学習内容の全体像を把握する	・事前に、知識や意識に関するアンケートを実施し、身近な問題であるという意識を持たせるよう配慮する。
展開	○ スライド4～6 産業財産権の概要 ○ スライド7～12 日本における特許法の歴史	・著作権との相違点を明確にする ・特許に関する法律以前の権利の守り方について説明することで、権利を守る視点が江戸時代にも存在したことを明確にする ・日本における特許権や実用新案権の必要性について強調する
	○スライド13～22 産業財産権が社会に与えた影響	・1つの発明が、その地域や企業を長きに渡って発展させること、知的創造サイクルの大切さを意識させる
	○スライド23～30 著作権の概要 ○スライド31～38 著作権クイズ	・誰もが持つ権利であることを明確にする ・「〇〇してはダメ」に終始するのではなく、無断で行なうことに問題があることを、理解させる。 ・著作権に含まれるさまざまな権利の必要性について、考えさせながら説明する。 ・さまざまな行為が、どのような権利の侵害になるのかを考えさせながら説明する。 ・条文を通して、各権利の内容を明確にする
まとめ	・学習したことを、今後の自分にどのように生かしていくかについて考える。	・学習で感じたことを数名の生徒に発表させ、共通認識をもたせる。


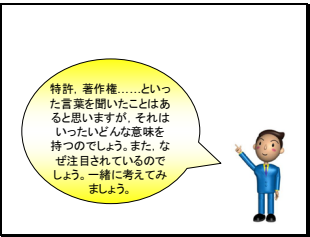
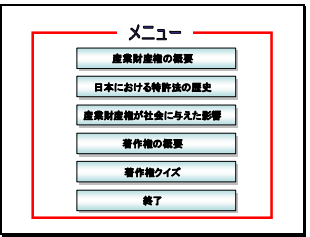
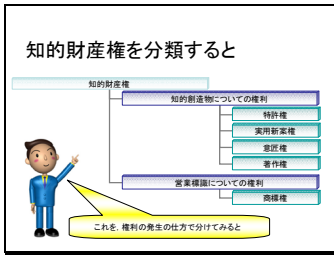
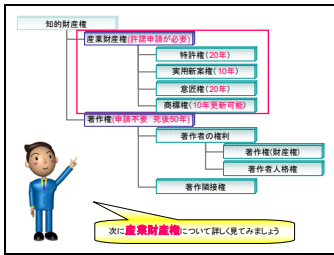
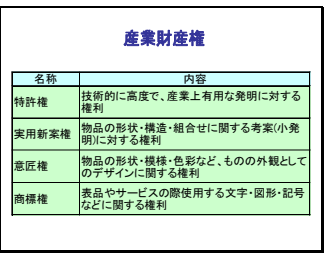

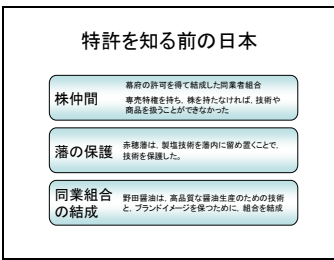
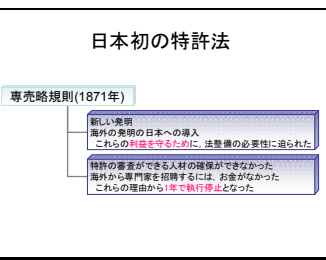
コンテンツに必要な環境

掲示用パソコン、Power Point、プロジェクタ、スクリーン学習コンテンツの解説

学習コンテンツの解説

著作権の授業は、「〇〇はダメ」のように、べからず集的な授業になることが多い。そのような授業では、生徒には「著作権は難しい」「煩わしい」という思いばかりが募り、権利を守ろうとする意識は育たないのではないかと考える。そこで、著作権は知的財産権の一つであることを踏まえ、知的財産権を保護することの必要性を強調する中で、著作権を守ることの必要性を、意識させたい。その際、独立行政法人工業所有権情報・研修館発行「特許から見た産業発展史」を用いて、産業財産権について学習しておくとい。

また、プレゼンテーションファイルは、「産業財産権の概要」「日本における特許法の歴史」「産業財産権が社会に与えた影響」「著作権の概要」「著作権クイズ」に分かれているので、授業展開に合わせて、必要に応じて、部分的に使用するとよい。

<p>スライド1</p>  <p>知的財産権</p> <p>タイトル</p>	<p>スライド2</p>  <p>学習内容の紹介</p>	<p>スライド3</p>  <p>メニュー画面</p>
<p>スライド4</p>  <p>知的財産権を分類すると</p> <p>知的財産権</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的創造物についての権利 <ul style="list-style-type: none"> 特許権 実用新案権 意匠権 著作権 営業権限についての権利 <ul style="list-style-type: none"> 商標権 <p>これを、権利の発生の仕方から分けると</p> <p>知的財産権の分類</p>	<p>スライド5</p>  <p>知的財産権における、産業財産権の位置づけの確認</p>	<p>スライド6</p>  <p>産業財産権の概要</p> <p>スライドをクリックすると、スライド3へジャンプ</p>
<p>スライド7</p>  <p>産業財産権確立の歴史への導入</p>	<p>スライド8</p>  <p>江戸時代における、権利を守るしくみの説明</p>	<p>スライド9</p>  <p>日本における特許法の必要性</p>

スライド 10

知的財産権に関する法律がなかった ための弊害

綿製品が大量に輸入されていた
がうんときまね
臥雲辰致
第1回国内産業博覧会で**風紋模倣綿織**と
人々の注目を集め、多くの**模倣品**が出回る
真綿にあえぎ、一生を終える

ヘボン博士
7年かけて執筆し、日本初の本格的和英・英和辞典
『和英語林集成』(完成1871)
辞典のコピーが大量に出回る

偽ブランドや模倣品など、**模倣な商品**が数多く出回る
多くの分野で、商品の**品質**や**技術**の管理ができなくなるとして、
技術水準が低い中模倣したため、製造者の**技術が向上しなかった**。
偽工業のモデルが模倣した。
模倣品や模倣品による品質低下のため、**重要輸出産業品の信用が低下した**。

知的財産権がなかったことによる弊害の紹介

スライド 11

法律の整備

不平等条約改正のためにも法整備が必要

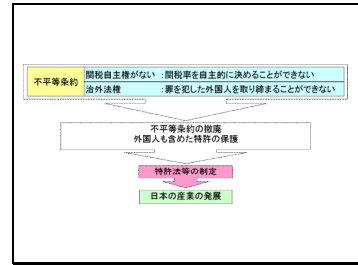
産業法の特長 1474年ベネチア共和国、発明者条約

商標権	1884年 商標条例
特許権	1885年 専売特許条例
意匠権	1887年 意匠条例
実用新案権	1905年 実用新案法
著作権	1905年 著作権法

パリ条約(工業所有権の保護に関する条約)加盟 1899年
ベルス条約(文学的および美術的著作物に関する条約)加盟 1905年

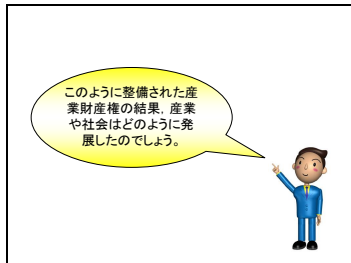
法整備の歴史

スライド 12



法整備の必要性のまとめ
スライドをクリックすると、スライド3へジャンプ

スライド 13



産業財産権が社会に与えた影響の導入

スライド 14

産業財産権保護による発展(高林謙三)

高林謙三(1831~1901)が製茶再煤器械を開発
↓
埼玉県狭山・静岡で技術導入
↓
現在、狭山・静岡はお茶の名産地

高林謙三による、製茶再煤器械の発明

スライド 15

産業財産権保護による発展(早川徳次)

1915年 シャープペンシルを開発
↓
1920年 実用新案取得
↓
1926年 アメリカで特許取得
↓
現在は シャープ(株) として発展

早川徳治による、シャープペンシルの発明

スライド 16

産業財産権保護による発展(松下幸之助)

二股ソケット 実用新案取得
↓
現在は 松下電器産業(株) として発展
↓
発明・考案で得た利潤で、新たな発明・考案を行い発展させた

松下幸之助による、二股ソケットの発明

スライド 17

産業財産権保護による発展(高峰譲吉)

1894年 タカジスターゼ(消化剤)を製造・特許取得
↓
アドレナリンの純粋分離成功・特許取得
↓
1913年「国民科学研究所」設立を提唱

高峰譲吉による、タカジスターゼの特許取得

スライド 18

産業財産権保護による発展(理化学研究所)

1917年 日本独自の発明・発見や技術開発を行うために設立
↓
アドソール(空気乾燥剤)・ビタミンB・ネオトン殺虫剤・コランダム砂布・陽面感光紙・合成酒・ビストリング等の発明・製品化
↓
1936年 設立19年で63社、121工場に拡大

理化学研究所における発展の概要

スライド 19

産業財産権保護による発展(ナイロン)

1935年 デュポン社(米)がナイロンを開発
↓
1951年 東洋レーヨンが、ナイロンの特許実施権取得
ライセンス料 売上高の3%
↓
3~4年で、ライセンス料の回収

デュポン社によるナイロンの発明

スライド 20

産業財産権保護による発展(トランジスタ)

1948年 ベル研究所(米)がトランジスタを開発
↓
1952年 東京通信工業が、特許実施権取得
↓
トランジスタラジオの開発
↓
江崎玲於奈が、エサキダイオードを開発
↓
江崎玲於奈が、トンネル効果理論でノーベル賞受賞

ベル研究所によるトランジスタの発明

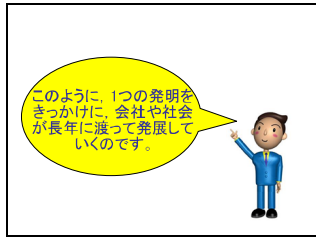
スライド 21

産業財産権保護による発展(即席麺)

1958年 安藤百福がチキンラーメンを開発
↓
製造法に関する特許を取得
↓
技術契約をした企業に対して特許の実施を認める
↓
より多くの企業が参画し、切磋琢磨することで、製品の品質向上、市場拡大、日本の産業育成をめざす
↓
カップヌードルの発明

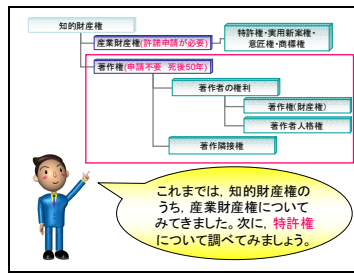
安藤百福によるチキンラーメンの開発

スライド 22



産業財産権が社会に与えた影響のエンディング
スライドをクリックすると、スライド3へジャンプ

スライド 23



知的財産権における、特許権の位置づけの確認

スライド 24



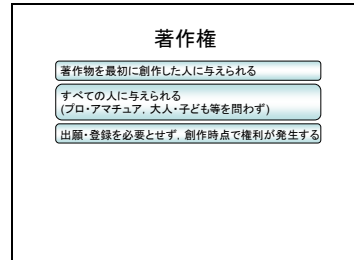
特許権の学習への導入

スライド 25

著作権(権利)	
複製権	複製する権利
上演・演奏・上映権	公に上演・演奏・上映する権利
公衆送信権	送信などにより、公衆に送信する権利
口述権	言語の著作物を口述する権利
展示権	美術の著作物を展示する権利
頒布権	映画以外の著作物を頒布する権利
譲渡権・貸与権	映画以外の著作物を譲渡・貸与する権利
翻訳権・翻案権	翻訳・編曲・変形・つくりかえる権利
公衆権	公衆の眼、公衆の聴きかきを受ける権利
氏名表示権	公衆の眼、氏名を表示する等の権利
同一性保持権	内容等を、変えて複製・改変されない権利
著作権隣接権(著作物の伝達者の権利)	録音・録画権 実演家・レコード製作者が、Webページ等や自動的に送信できる状態にしたり、貸与する権利

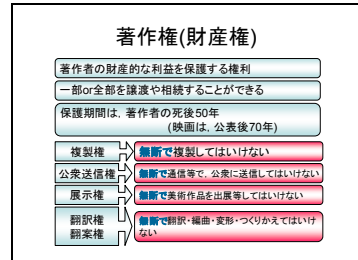
著作権の内容の紹介

スライド 26



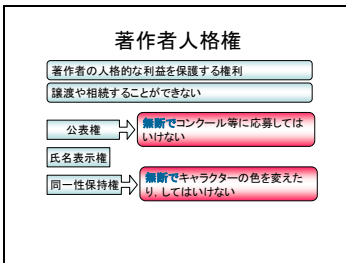
著作権の特徴の説明

スライド 27



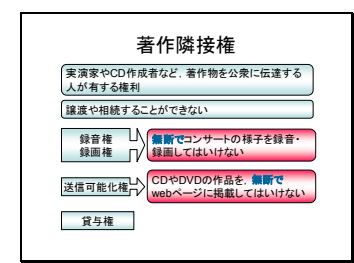
著作権(財産権)の説明

スライド 28



著作人格権の説明

スライド 29



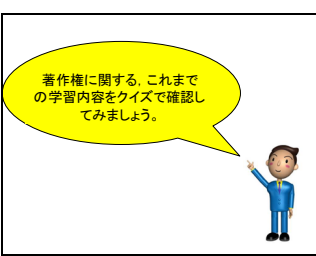
著作隣接権の説明

スライド 30



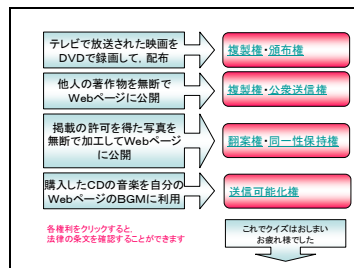
著作権の説明のエンディング
スライドをクリックすると、スライド3へジャンプ

スライド 31




著作権クイズへの導入

スライド 32



各行為が触れる権利についての確認
各権利をクリックすると、該当する条文を確認できます。
[これでクイズはおしまいお疲れ様でした]をクリックすると、スライド3へジャンプ

<div>スライド 33</div> <div><div>複製権</div><div>著作権法 第二十一条 著作権者は、その著作物を複製する権利を有する。</div><div>第九十六条 レコード制作者は、そのレコードを複製する権利を専有する。</div></div> <div>複製権に関する条文</div>	<div>スライド 34</div> <div><div>頒布権</div><div>著作権法 第二十六条 著作権者は、その映画の著作物をその複製物により頒布する権利を専有する。 2 著作権者は、映画の著作物において複製されているその著作物を該映画の著作物の複製物により頒布する権利を専有する。</div></div> <div>頒布権に関する条文</div>	<div>スライド 35</div> <div><div>公衆送信権</div><div>著作権法 第二十三条 著作権者は、その著作物について、公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。）を行う権利を専有する。 2 著作権者は、公衆送信されるその著作物を受信装置を用いて公に伝達する権利を専有する。</div></div> <div>公衆送信権に関する条文</div>
<div>スライド 36</div> <div><div>翻案権</div><div>著作権法 第二十七条 著作権者は、その著作物を翻訳し、編曲し、若しくは変形し、又は脚色し、映画化し、その他翻案する権利を専有する。</div></div> <div>翻案権に関する条文</div>	<div>スライド 37</div> <div><div>同一性保持権</div><div>著作権法 第二十八条 著作権者は、その著作物及びその臨写の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、改変その他の改変を受けないものとする。 2 前項の規定は、次の各号のいずれかに該当する改変については、適用しない。 一 第二十三条第一項（複製権）において専有する場合を含む。、第二十三条の二第一項又は第二十三条第三項（公衆送信権）において専有する場合における利用又は伝達の方法の変更その他の改変、学芸研究の目的として行われ、又は公衆に伝達されるもの 二 複製物の複製、改変、複製又は公衆送信による改変 三 特定の電子計算機においては利用、得ないプログラムの著作権者を当該電子計算機において利用し得るようにするため、又はプログラムの著作権者を電子計算機においてより効果的に利用し得るようにするもの 四 第三項に於いて掲げられるもののほか、著作物の性質並びにその利用の目的及び態様に照らしやむを得ないとするもの 第九十条の三 実演家は、その実演の同一性を保持する権利を有し、自己の名誉または声望を害するその他の改変、複製その他の改変を受けないものとする。 2 前項の規定は、家庭の性質並びにその利用の目的及び態様に照らしやむを得ない認められる改変又は公正な慣行に反しない認められる改変については、適用しない。</div></div> <div>同一性保持権に関する条文</div>	<div>スライド 38</div> <div><div>送信可能化権</div><div>著作権法 第九十二条の二 実演家は、その実演を送信可能化する権利を専有する。 2 前項の規定は、次に掲げる実演については、適用しない。 一 第九十一条第一項に規定する権利を有するものの許諾を得て録音されている実演 二 第九十一条第二項の実演で行動の録音物以外のもに録音され、又は録音されているもの 第九十六条の二 レコード制作者は、そのレコードを送信可能化する権利を専有する。 第九十九条の二 放送事業者は、その放送又はこれを受信して行なう有線放送を受信して、その放送を送信可能化する権利を専有する。</div></div> <div>送信可能化権に関する条文</div>
<div>スライド 39</div> <div><div>以上で、知的財産権についての授業は終わり。今後は、知的財産権を意識した行動を取ってくれることを願っています。</div><div></div></div> <div>プレゼンテーションのエンディング</div>	<div>スライド 40</div> <div><div>参考文献等</div><div><ul style="list-style-type: none">・※1明治学院大学ボランティアセンター http://volunteers.meiji.ac.jp/welcome/hepburn.html・社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 http://www2.acs.jp.or.jp/・『特許から見た産業発展史』 独立行政法人 工業所有権情報・研修館・『最新情報C』 実教出版・『ケーススタディ 情報モラル』 第一学習社</div></div> <div>参考文献の紹介</div>	